

会議議事録（要旨）

会議の名称	平成30年度 第5回鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画 作成委員会
開催日時	平成30年12月7日（金）10:00～12:00
開催場所	鳥取市役所駅南庁舎 地下第5会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	竹森委員、山根恒委員、幸本委員、山根裕委員、岸本委員
事務局職員氏名	中島福祉部長、梶課長、小森課長補佐、岸本主幹（以上、鳥取市福祉部 地域福祉課）、鹿田次長、田中次長兼総務企画課長、相見地域福祉課長 （以上、鳥取市社会福祉協議会事務局）
会議次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 （1）計画の素案について （2）その他 4 閉会
配付資料	資料1 鳥取市地域福祉推進計画（鳥取市地域福祉計画・鳥取市地域 福祉活動計画）—素案— 資料2 鳥取市地域福祉推進計画（鳥取市地域福祉計画・鳥取市地域 福祉活動計画）の計画（施策）の展開 その他 鳥取市における地区を単位とする新たな福祉ネットワーク のイメージ図、これからの鳥取市における重層的な地域福 祉推進体制のあり方、次第、名簿、座席表
その他	

議事内容（要旨）	
事務局	・開会
岩城委員長	・挨拶
事務局	・出席者の確認
岩城委員長	・議事（１）計画の素案について事務局から説明する前に、M委員より、鳥取市地域福祉の推進に当たって、体制などについて提言があるので、説明を願いたい。
M委員	・鳥取市における地区を単位とする新たな福祉ネットワークのイメージ図（以下、イメージ図）、これからの鳥取市における重層的な地域福祉推進体制のあり方（以下、これからのあり方）説明
岩城委員長	・質問や意見等あれば伺いたい。
N委員	・横のつながりが大事だということがよく分かった。いいと思う。 ・これからのあり方にある「常設型のサロン」は、毎日の感覚で受け止めてよいのか。
M委員	・最終的には、そこを目指してほしい気持ちがある。 ・現在常設型サロンで頑張っている八頭町では、週２～３回。それまでできなかったことが、今できている理由としては、集落支援員がコーディネーターとして、週３回必ず張り付く形になったからだ。週５回できればよいが、地区の考え方や担い手の養成次第だ。
N委員	・要は相談等を拾い上げられる体制を常時保てるという理解でよいか。
M委員	・サロンが公民館の一角にある。そこにはコーディネーターや民生委員、ボランティアがいる。地域の人があるところへ行くのと誰かいるので、相談ができる。地域の課題の集約場にもなり得る。
N委員	・その場所が福祉学習のプラットフォームになるようなことを想定しているのか。プラットフォームというと大層な感じになるが、例えば誰かに講演してもらい、地区の人が話を聴く。そういった身近で聴ける場としての認識でよいか。
M委員	・できると思う。これまで講演などは主に社協などが提案して行ってきたが、地域独自に必要なことを企画できる。学校と地域が一緒になって、地域の人と子どもにどのような福祉学習したらよいかを考える場にもなる。 ・全市的なものと地区別のもので２層に分けてあった方がよいと思う。
N委員	・そこにサロンがある。お茶が飲めるような構え方でよいか。
M委員	・そういうものを組み合わせていけばよい。例えばサロンに集まれる人に、介護保険について詳しい話をということならば、役所の人に介護保険の動向について話してもらって出前講座を組み合わせることも十分考えられる。色々な形で学びの場を作ることができる。

議事内容（要旨）	
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市で、地域福祉相談センターを作ったと聞いている。地区を単位とする福祉ネットワークで、どのような関わり方を持つのかイメージがあったら、教えてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉相談センターは、各中学校区に1つ以上設置しました。これまでは、地域介護支援センターとして主に介護の相談を受けてきましたが、今後は高齢者だけでなく、障がいや生活困窮など地域の課題を丸ごと受け付ける体制になります。地域福祉相談センターの業務を行う施設の専門が、高齢者なので、専門外は関係機関につなげることになります。それぞれの地区で住民ごとに相談できる場づくりを進め、住民同士では解決できないことを地域福祉相談センターに持って行ってもらうことを考えています。そうして地域連携を進めていきたいと思います。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ図の【〇〇地区】の図の中にある、介護事業所・社会福祉施設の矢印のような動きをするというイメージか。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このイメージ図は、あくまでも地区を単位に考えている。地域福祉相談センターは、包括的支援体制の話に入ってくるので敢えて入れていない。 ・これからのあり方にある第3層（地域包括圏域・中学校区）の具体的な取組例「◎地区福祉ネットワークとの連携・活動支援」は、地域包括支援センターと地域福祉相談センターが連携しながら、地区の新たな福祉ネットワーク等と連携していくことである。その際に大事なものは、（同じ第3層の）具体的な取組例「◎C S W（コミュニティー・ソーシャル・ワーカー）機能の確立」だ。地区の連携により、地区で把握された課題を専門職が拾い上げていかないといけない。そこで大事なものは、窓口の職員が地域に出ていくこと、アウトリーチの機能を中心とするC S W機能を確立させることだ。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域現場の立場から意見を言いたい。イメージ図はとても大切だと思っている。イメージ図やこれからのあり方をきちんと出すことにより、具体的な形が見えてきたような気がする。 ・地区によって差が出ると思う。各種団体や主な地域組織のトップは素晴らしい力を持っているが、一緒にやることは難しい問題だ。それを作り上げることで地域に合った形、組織ができると思う。地域に職員や先生などのようなリーダーを育てる人を送り、指導を受けながら刷り込んでいかないと、地域でひとつになって作り上げるのは難しい。しっかり協力していくので、紙の上で終わらないようにしてもらいたい。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのあり方にある、圏域の考え方について。第1層は自治会、集落が単位となっている。（介護保険事業での）生活支援コーディネーターの位置付けと合わせるとしたら、第1層を全市域とした方がよいと感じた。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは住民にはあまり知られていないことだ。

議事内容（要旨）	
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・上から第1層、第2層、第3層・・・とある中で、いかに第3層を充実させるかが「カギ」だ。第2層にある地区公民館区、小学校区、第3層の地域包括圏域、中学校区が充実するように、体制づくりをバックアップする役割が大きいと思う。 ・私も地域福祉相談センターに関わっている。看板の付け替えに過ぎないのか、先ほど説明があったようなCSW機能を持たせるような予算措置ができるのか、もう少し踏み込んで話してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・相談は、今現在の地域介護支援センターで相談を受けている人に引き続き受けてもらうことを考えています。新たに配置することは考えていません。
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私の所属している法人も地域福祉相談センターを受けましたので、その思いを話させていただきます。今、（地域介護支援センターは）介護の窓口として機能しているが、実はそれ以前の、高齢者や家族などにまつわる問題や小さな子どもの保育の問題などの相談がたくさんある。ケアマネジャーはたくさんケースを持って働いているが、そういった問題を無視できないので、どこかへつなげるなど対応している。新たな相談の窓口を持ったとしても、さほど重いものではない。職員の人材育成についても、そういったことにきちんと対応できる体制を取っているのか、かえってよかったと考えている。 ・専門性を持った職員は、その専門性の仕事をするようになるので、色々な問題に対応できるよう研修などをする、対応する職員のネットワークを作ること、地域とのつながりを作る方向に行くべきだと思っている。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターの人と訪問したケースを1つの事例としてあげたい。家族構成は認知症の男性と妻。妻は要支援1くらいのレベルだと思われる。男性が近所を歩いて回る、朝出て夕方帰ってきているので近所が心配している。妻からのサービスの相談だったので話をしたが、よくよく聞くと2階に2年ほど引きこもっている50代の息子がいるそうだ。本当はその息子の話をしたいのと思うが、自分からは助けてほしいと絶対に言わない。このケースは1年前に話があり、妻が認定調査を受けたいと言われたので、ようやく動くことができた。今回の話を聞いて、つなげたいと思っているが、妻がシャットダウンした。こちらが依頼を受けないと動けない。M委員が話す「CSW機能」は、そういう人たちに対してのソーシャルワークをどうするかことだと思ふ。そこの部分に手をつけるとなったら、妻が心を開かないままでやらないといけない。誰がやるのかと思う。今必要なのは地域の中で相互相談を受けながら、伴走支援ができる人だ。

議事内容（要旨）	
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域には、もっと困った人がいるというのが現実だ。 ・ 要介護2の人へデイサービスに行かないか、包括支援センターの職員が誘いに行ったことから、すぐ生活保護を申請してくださいとなった。しかし、来るなどシャットアウトする。そこは老夫婦で妻は認知症、夫は車を持っていない。病院に連れて行っても、一晩で「帰りたい」と言うし、お金もないこともある。民生委員は車の運転手となっている。そこは以前から頑なに生活保護を拒否していたが、ようやく渋々ながら了解してもらえた。生活福祉課の方に相談をし、病院への受診もできた。年金受給の関係で、年金事務所に同行した。証明するものを求められたが、貯金通帳しかない。翌日もう一度行ったが、こういったことはなかなかしづらいつと感じた。 ・ ころろ支え愛のネットワークの会を作った。メンバーは5人で老人会、女性会、子ども会、民生委員から成る。地域福祉丸ごとということで、老人会と子ども会など違う会が同じような事業をすることで、互いが楽しく集える仕組みづくりが今後求められているように思う。地域には人権福祉センターがあるが、その力も大きく、1つの社会資源として相談体制を取ってもらえるとありがたい。
0 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの資料を見て、腑に落ちたような気がした。ただ、地区の力を通して保持していく、高めていくことが住民の身近な課題でもある。山積する様々な課題を小さな地域でどうするかは、ネットワークと連携することもあるし、地域福祉相談センターから新たなネットワークができていくこともあると思う。 ・ ワンストップで行ってもらいたいと思っている。例えばごみ屋敷は、家族などの問題が山積してごみ屋敷という形で出てきている。連携することで問題を改善につなげる形が見えた。 ・ 小地域に若者をどうやって取り込んでいくかだ。次の世代には、活動を見て、理解してもらいたい。そのつなぎ合わせも必要だ。地域の若者を巻き込むことも必要だ。

議事内容（要旨）	
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいと感じた。一方で、地域の問題はそれぞれで違う。特に市街地域では、民生委員や町内会長の成り手がいない。新たな福祉ネットワークについては、地域福祉が大事であることを強く感じていない地域では、不快感が増大するのではないかという気がしている。「鳥取市から『やりなさい』と言われた」と思うのではなく、「少子高齢化でどの地域に必要なことだから、自分たちでやる」ということを理解してもらおう努力は、どこの誰がどうやってやるのが疑問としてある。 ・新たな福祉のネットワークの旗振り役、推進していく人は誰がやるのかという疑問もある。行政がやれば、「仕事があるのに、行政が決めたことを地域にやらせて忙しくさせる」という思いが出てくるのではないか。コーディネーターが得られる地域はよいが、そういった情報がない地域はどうするのか。人口が多い地域は人の中に埋もれてしまい、そういった人を発見できない。つながりが希薄という問題もある。組織を作っていく上で、そういった問題をどうクリアしていくのかも疑問としてある。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 には、市の役割や民間の方向性が書かれている。ネットワークについては、行政が入り込み、コーディネーターの設置などの支援が必要ではあるものの、専門的な支援という形で主に市社協に頑張ってもらいたい。住民と一緒に作り上げるので、市社協の役割は大きい。社協からもコメントをもらえるとありがたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市社協が生活支援コーディネーターを受託し、地域課題を話し合う場を作ろうと進めています。新たな福祉ネットワークにおいても、生活支援コーディネーターとは別に地区コーディネーターという形で地域に入り、地域の理解や協力を推進する役になると考えています。
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県社協の運営委員会に入っているので、各町村へ日常生活自立支援事業の実態を見に行き、社協の話も聞いている。1人が5つも6つも仕事をしている。そういった人がコーディネーターとして地域に入るということは、夜間に開かれる地域の会議にも出るということだ。そういった面での人材や体制の実態はどうなっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターは、現在8人配置しています。時間外勤務になる場合は、代休という形を取っています。地域の全ての要望に応えることは難しいかもしれませんが、できる限り夜間も対応しているのが実情です。
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・では社協については、安心してよいということだ。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に質問や意見等あれば伺いたい。

議事内容（要旨）	
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ図を見て、地区を単位とする新たな福祉ネットワークを作ること、その地区はこれからのあり方の第2層になるというのは、極めて現実的だ。一気ににはできないにしても、そういった単位を作っていけないといけない。共感できる。 ・新たな拠点を作っていく上で、地域の実情が違うのでプロセスも違ってくる。拠点となる場所、活動内容、担う人、お金という4つの要素が必要だと思う。 ・場所については地区公民館が有力だと思うが、公民館長によって規則の適用（又は解釈）が異なる。同じことをやっても、できる所とできない所がある。もう少し統一した規則の適用（又は解釈）が必要だと思うし、地域づくりの拠点としての地区公民館の趣旨に反しない限りはもう少し幅広く受け入れる形にしていけないといけない。館長も頑張っていると思うが、検討してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は地区公民館などを考えているところです。地元の人の方考え方を聞きながら進めていけないといけないと考えています。公民館長会などで計画の考え方を伝え、理解を進めてもらえるようにしたいと思います。
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる地区の地区社協は人数が少ないので、地域が協力していかないといけない。公民館もまち協（まちづくり協議会）の事務局が入ったりしているので、これ以上は、と言うかもしれない。地域が協力していく体制にしないとできないと思う。並行して、集落は集落で何とかしていかないといけないとも思う。それには若い人が出てこないといけない。子どもの頃から教えていくことが大事かなと思う。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、議事（1）計画の素案について、説明を願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1、2説明
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見等あれば伺いたい。
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 P15 の【圏域のとらえ方のイメージ】について。これからのあり方の第2層と第3層が、このページでいう「地区」になると思うが、地区を幅広く設定してある。新たなネットワークを作っていくとなるとできるのか。地域福祉をエリアで考え、ネットワーク構築することとの関係で言うと小学校や公民館などの拠点施設を中心にして行う。そうすると来てもらえる範囲、サービスの提供に行ける範囲が自ずとある。例えば青谷は小学校が統廃合しているため、公民館単位だと思う。施策との関係で地区と言っているのか、新たなネットワークでいっている地区との関係で言っているのか。整理の仕方が少し疑問だ。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区まで含めて地区としたのは、住民の活動単位が、旧町村域では中学校区、旧市街地では地区公民館区域というのがあります。合併後の新市域では、地区公民館区域単位での活動があまり活発ではない状況もあるため、中学校区までを地区として入れてネットワークを構築しないといけないと考えました。

議事内容（要旨）	
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ「地区」という言葉を使っているが、エリアによって実態が違うことは分かった。同じ計画の中で整理しようと思うと、「地区」という言葉で括ってしまうことになると思うが、計画を進めていく上では、地域によってどこが第2層に当たるのか具体的にしないとイケない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地区でどこまでをネットワークとして構築していくかは、それぞれで考えてもらうことを念頭に置いています。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 P72 について。計画そのものは素晴らしく、実際に実行されれば素晴らしいと思う。文中に「定期的に事業の達成状況や評価を整理します。また、必要に応じて取組の変更や見直しを検討します。」とあるが、敢えて出さなくてもよいように思うがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の中身は幅広いのですが、計画を策定した以上、どのようになっているかを出して、進行管理を行いたいと考えています。どんな形で出すかは、進めながら考えていきたいと思えます。6年という長期計画なので、3年目あたりで必要に応じて見直すことも念頭に置いています。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローの会議は、年に一度くらいのイメージか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回くらいと考えています。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、一つひとつ進行状況を出すように求め、各地区が報告する。そして半年に1回、我々が集まって協議するというイメージか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在考えているのは、市や社協の部分を考えています。地域ごとに報告してもらうのは難しいと思うので、市の把握状況になります。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな福祉ネットワークの中で、6年間では全部が整わない。例えば常設型のサロンを6年の間になるべくこうしてくださいといったものはあるか。
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標を定めて、そこに向かって行くというのなら私も賛成ではない。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・単に努力目標だけだと、地区によって温度差が生まれる。地域が崩壊しないようにするためにはコーディネーターだけでも置くので地域で決めてくださいよ、など、より重点的に進める部分と、ここは地域に任せるといった部分はあるのか。

議事内容（要旨）	
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加で進行管理をすることが、全国的に見ても当然になっている。鳥取市でも介護保険計画・高齢者福祉計画は、既に住民参加で進行管理を行っているので、この計画でも当然という位置付けだと思ふ。ただ扱っている範囲が広いので、どれくらいの頻度と内容で行うかは考えないといけないので、今後事務局で詰めていく必要がある。 ・全部きっちりやるというのは負担が大きく、作業量も多いと思うので、重点課題にアクセントを置くことが必要だ。3つの重点課題を設定しているので、そこを中心に進行管理を行う。なぜ機能していないのかを分析する時、各種団体の協力を求めていくような話し合いがこの場でできることが望ましい。 ・数値目標の設定について。6年間でこれだけ作るという数値化は難しいと言わざるを得ない。成果を出していくために支援を集中させる「モデル事業」を作ることが大事だ。最重点課題は、地区を単位とした新たなネットワークと考えてよいが、行政や社協の支援も含めてパッケージ化してモデル事業を作る。その事業がどのように動いているかを、進行管理で確認するのが分かりやすいと思う。 ・全てでなく重点課題に力を入れ、分かりやすく説明できるようモデル事業化をする。それがどう進んでいくかの説明を中心に、進行管理をしていけば分かりやすいと考える。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市としてはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、M委員の提案で進めたいと思います。重点課題を中心にやりたいと思います。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ある地域でやるということなのか、M委員に聞きたい。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全地域で一斉にやるのは、事実上不可能だ。やってみたい、またはやる力がある地域を幾つか選定して、パッケージ化する。どのように進んでいるのか、進行報告を行う。その中で何が成果か、何が課題かを我々が見極める。
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な進行管理はどこが行っていくのかと思った。また地域包括支援センターや地域福祉相談センターの役割をどう見出すのかと感じた。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にあれば伺いたい。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2で修正してもらいたい点がある。 ・表の右側にある鳥取市の福祉課題の13項目が一部横書きになっている。全て縦書きに変えてもらいたい。

議事内容（要旨）	
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・（資料2の）P 6に避難行動要支援者のことが出ているが、これは大変重要なテーマだと思う。平成30年7月豪雨で、岡山県真備町では50人余りが亡くなったが、その内40人くらいは避難行動要支援者だったという。実は地域の中で孤立していたので、どこに避難してよいかすら分からなかった。こういったことを防ぐには、避難行動要支援者との交流が大事だ。 ・さらに行政の中で、危機管理の部局と福祉がきちんと連携できているのかを考えた方がよい。危機管理の部局は、十分に福祉と連携が取れていないと言う。避難行動要支援者に対して避難行動計画を作らないといけないのだが、実際には取り組めていないという話も聞いている。これは鳥取市だけでなく、隣の八頭町も同様だ。住民の協力なしには避難行動計画が作れない。そういう現状を危機管理部局と福祉で連携してもらいたいので、「危機管理と福祉の連携」もここに加えてもらいたい。 ・また防災は地震を念頭に置いていて、水害を想定していないと聞いている。将来的には水害を想定した避難訓練等も行ってもらいたい。これまでのことを教訓として生かしてもらいたいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課には色々と相談して進めていますが、連携はまだ十分とは言えません。 ・避難行動要支援者については、登録台帳の中に支援者や医療等の情報を記載しています。行動計画については、支え愛マップ作成を通し、どのように避難してもらおうか、地域で作ってもらうよう取り組んでいるところで、実際にどう逃げるかはまだ進んでいません。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市の避難行動は万全であるという考えなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・万全ではありません。支え愛マップで、地域で具体的にどうするかを考えてもらいたいと思っています。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市は大変遅れていると考えた方がよい。危機意識を強く持っていないと、行政は後悔することになる。今のままだと、千代川などがあふれて水害が発生しても多くの人を救えないと確信を持って言える。 ・やっていると言うが、本当に効果がある形でできているのかを考えてもらいたい。足りない所をきちんと分析し、できていないことを積極的にやっとうと、反省を込めたものを入れてもらいたい。やっている、やっていないで言えば、どこの自治体もやっているが、実際の豪雨災害では多くの命が奪われている。そこをしっかりと捉えてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課とも連携して進めたいと思います。

議事内容（要旨）	
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他何かあれば伺いたい。
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課、警察、消防と一体となった避難訓練をしている。まず災害を知る、地域を知る、人を知ることからスタートしている。地域の中にどのような人がいるか、地形的に山崩れが起きるのか、河川が氾濫するのから始めている。今年度は豪雨災害を想定して、避難訓練を4回行った。支え愛マップを作りそれに基づいて訓練したが、危険区域などは歩くことで分かる。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者制度について。7月の豪雨災害について、鳥取市の民児協会長会で各地区での対応を話し合った。水害直前の地区も結構あったので、その時の対応をグループディスカッションしたが、民生委員が持っている名簿をどう生かすかについて危機感を持った。要支援者制度をもう少し活用してもらいたいと思った。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、議事（2）その他について何かあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の意見をもとに修正を行いたいと思います。 ・次回の会議の日程について説明。
岩城委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・議事はこれで全て終了した。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会挨拶 ・閉会